“鎌倉楽しむ会”
“令和２年初夏の”

常楽寺～六国見山～円覚寺の散歩

◆ 開催日　：　令和２年△月△△日（△）
◆ 集合場所　：　ＪＲ大船駅南改札口
◆ 集合時間　：　午前９時４０分
◆ 解散時間　：　午後２時３０分（北鎌倉駅）
◆ 参加費　：　５００円（資料代、保険料含む）
◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

大船駅南改札口／常楽寺／多聞院／熊野神社／高野切通し／六国見山入口／六国見山ハイキングコース／見晴台（昼食）／稚児塚／明月谷ハイキング／明月院／円覚寺／北鎌倉駅（解散）／

１）ＪＲ大船駅南口

（神奈川県立生命の星・地球博物館資料より）

・鎌倉の歴史　（古墳時代～弥生時代）

鎌倉の地に最初に人が住み始めたのは、今から一万年以上前の後期旧石器時代のころと推測されている。この時代は火山活動が活発な時期で、富士や箱根の山が盛んに噴煙を上げていた。その営みを示す石器として、昭和29年（1954）に大船小袋谷で採集された黒曜石片などにみられる。

・縄文時代は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の六つに時代区分されている。

・縄文時代前期ころまでは海進期で、海岸線は今よりかなり陸地の奥深くまで入り込んでいたとみられる。鎌倉の湾も現在の鶴岡八幡宮の前や荏柄天神社の下辺りまで及んでいたとされる。

・また、北部の大船の入江は、藤沢から横浜戸塚区、栄区の奥深くまで入り込んでいた。

・縄文時代後期ごろから再び気候は寒冷化し、海も後退して陸地が広がった。この頃の土器は横浜国大付属小・中学校校庭などから発見されている。

・弥生時代に入り、鎌倉の海岸線はさらに後退し現在の位置に近いところまでに下がったと思われる。

・「大船の地名」

古くは、「栗船」「青船」と記されている。大船の地名は、辺りが入り江であったころ、栗を積んだ船が繋がれていたことによると伝えられる。

（鎌倉検定公式テキストより抜粋）

2）常楽寺

・常楽寺
宗派は、臨済宗建長寺派、
山号は「栗船山（ぞくせんざん）」
創建は嘉禎（かてい）3 年（1237）、
開山は蘭渓道隆（らんけいどうりゅう）、
開基は鎌倉幕府三代執権・北条泰時（ほうじょうやすとき）です。
本尊は阿弥陀三尊です。
・開基の泰時は妻の母の供養のため栗船御堂を建て、供養したのがこの寺の始まりとされている。

・泰時は、現存する築港では日本最古の「和賀江島」を鎌倉・材木座海岸に築き、また、六浦湊から塩の道として鎌倉七口の一つ「朝夷奈切通」を完成させ、さらには、後の武家法の規範となった「御成敗式目」を制定するなど、善政を行った名執権として知られる。仁治（にんじ）3 年（1242）に 60 才で没した。
・泰時の墓はこの寺にある。

・現存する伽藍は仏殿（県重文）山門（市重文）、文殊堂がある。仏殿には本尊の阿弥陀如来像、脇侍に観音菩薩像・勢至菩薩像が安置されている。
また、文殊堂には、鎌倉時代の文殊菩薩坐像（県重文）が秘仏として安置されている。(1 月 25 日の文殊祭には開帳される。)

・鎌倉・建長寺を開山した「蘭渓道隆」は、常楽寺ともゆかりが深く、建長寺を開山する五年前に蘭渓道隆は、この寺で宋の禅を広めた。参禅求道する僧が列をなしたという。
「常楽は建長の根本なり」といわれるほど建長寺とは深い関係を持っている。

・蘭渓道隆＝大覚禅師
南宋から渡来した禅僧。寛元 4 年（1246）に来日。5 代執権北条時頼に招かれ、建長 5 年（1253）、建長寺の開山となる。道隆は宋の厳格な禅風により、千人を超える修行僧を指導した。そのとき使われた自筆の指導書「法語規則」が国宝として残っている。京都の建仁寺の住持にもなった。道隆は 66 才で示寂、後宇多天皇から「大覚禅師という日本初の禅師号を与えられた。

・常楽寺の梵鐘です。宝治 2 年（1248）に鋳造された鎌倉では最古のものです。鎌倉三名鐘の一つで鎌倉国宝館に展示されている。他は建長寺梵鐘（国宝）と円覚寺の梵鐘（国宝）です

・本堂の裏山（栗船山）に木曽冠者義高の塚がある。
・木曽義仲の嫡子で、鎌倉幕府の人質となり、頼朝の長女・大姫との悲恋物語がある。 （別掲します）

3）多聞院

・真言宗大覚寺派
・本堂に祀られている「毘沙門天」は、「多聞天」ともいい、院名の由来となった。昔は山ノ内にあったが、天正 7 年（1579）に現在地に創建された。本尊の毘沙門天は仏の四方を守る守護神のうち、北方を受け持つ神像であると同時に、七福神の中の、福を授ける神でもある。

4）熊野神社

・この熊野神社は、天正 7 年（1579）小田原北条氏の家臣であった甘糟長俊によって勧請されたのが始まりと伝えられる。ご祭神は「日本武尊（やまとたけるのみこと）です。末社に「崇徳天皇」をお祀りする金比羅宮がある。
・明治時代に神仏分離令が出されるまで、隣の多聞院が別当寺であった。

5）大船切通

・大船の切通しは、歴史資料として調べきれないが、おそらくは六浦湊（金沢文庫）からの交易道として切り開かれたものと思います。掘削の切り口が往時の労働の大変さが伝わってきます。

6）六国見山高野口登山口

・大船切通しを過ぎて、大船高校のグランドの網塀に沿って突き当りの小さな階段を上がり、高野ロータリーに出ます。
そこから右に少し行けば、左の写真の六国見山登山口の標識に出ます。

7）六国見山展望台

・左の写真は展望台にある標識です。標高 143.8m です。
・相模、武蔵、伊豆、上総、下総、安房の六国が望めたことから名が付いた。山腹に広がる樹林地を自然のふれあいや大島、富士山、丹沢などの眺望景観を大切にした公園に整備したという。
・右の石塔は、円覚寺 207 世管長の釈宗演（しゃくそうえん）師の揮毫による「浅間大神」です。

＊トイレなし要注意＊

８）伝　稚児の墓

・藤原鎌足の子孫で、関東諸国の総司令官として「由比の長者」と呼ばれた「染屋時忠」の娘の供養塔と言われている。時忠の娘が 3 才のとき、大鷲にさらわれ、追いかけたが見つけることができず、肉片を見つけては娘のものと思い供養したという伝説が残されている。供養のための塔を建てたところは、鎌倉に 7 ヶ所あったのだという。その一つが「稚児の墓」であると言われている。
・染屋時忠は、鎌倉最古の「甘縄神明宮」を和銅 3 年（710）に建立している。源頼義が当社に祈願して子宝（八幡太郎義家）を授かったことから、源氏との深い神社として信仰される。鎌倉幕府を成立させた頼朝も社殿を修理し玉垣や鳥居を建てたという。北条政子や実朝も参詣したと伝えられる。

９）明月谷ハイキングコース

・令和元年 10 月に日本全土を襲った 19 号台風の被害は、鎌倉に於いても甚大な被害を被った。主なハイキングコースは、未だに通行禁止となっている。ここ六国見山ハイキングコースは開通されているが、左の写真のように倒木が山道を塞いでいるが、う回路ができ通行可能となっている。
また、自然災害の恐ろしさも体験できるハイキングコースでもあります。

１０）明月院

上杉（藤原）重房像

・明月院は平治の乱（1159）で戦死した首藤刑部大輔俊道（しゅとうぎょうぶたいふとしみち）の菩提を弔うため、永暦元年（1160）俊道の子、山ノ内経俊（つねとし）によって創建された明月庵を起源とする。
・その後、康元元年（1256）、五代執権北条時頼が、この地に最明寺を建立したが、三十才で卒去。のちに時頼の子、八代執権時宗が最明寺を前身に蘭渓道隆を開山として「禅興寺」を創建した。
・康歴二年（1360）、鎌倉公方の足利氏満から禅興寺中興の命を受けた、管領の「上杉憲方」は寺域を拡大し、塔頭も建てた。この時明月庵は「明月院」とあらためられ、支院の首位におかれた。
・室町幕府三代将軍・足利義満の時代に、禅興寺は関東十刹の一位となるが、明治初年に禅興寺は廃寺となり明月院が残った。
・宗派は臨済宗建長寺派。山内をくぐった左手にある方丈と称される本堂には、本尊の聖観音菩薩がまつられている。
・本堂の左に行くと密室守厳（みっしつしゅごん）像を安置した仏殿・宗猷堂（そうゆうどう）があり、さらにその左の山際には、鎌倉にある「やぐら」の中では最大級のものがあり、上杉憲方の墓といわれる「宝篋印塔」がまつられている。
・また、宗猷堂の右側に鎌倉十井のひとつ「瓶（つるべ）ノ井」があり、現在も使える井戸がある。花の寺としても有名で、春先にはシダレザクラ、レンギョウ、ボケ、モモ、冬はスイセン、ツバキ、ロウバイなどの四季折々の花が咲き、特に初夏は、参道から境内に至るまでを覆うアジサイが見事です。
・左の写真の像は、「上杉氏の祖」で（国重文）の「上杉（藤原）重房」坐像である。明月院に安置されている。（非公開）

１１）円覚寺

・臨済宗円覚寺派総本山。山号は瑞鹿山。鎌倉五山第二位。約六万平方メートルの寺域は国の史跡に指定されている。文永（1274）・弘安（1281）の役の二度にわたる中国・元との戦いで死んだ兵の菩提を弔うため、八代執権北条時宗が、弘安五年（1282）、宋の禅僧、無学祖元を開山に招いて「円覚寺」を建立した。
・寺名の由来は、起工の際、地中から「円覚経」を納めた石櫃（いしびつ）が掘り出されたことによる。
・創建初期の伽藍は仏堂、僧堂、庫裏があるだけだったが、鎌倉幕府の祈願所に定められてからは、土地や建物の寄進を受け、次第に大きな寺へと発展していった。

・元弘３年（1333）、鎌倉幕府が滅びた後、足利尊氏の帰依の厚い、夢窓疎石（むそうそせき）が瑞泉寺より、ここ円覚寺の住職についた。後醍醐天皇の力もあって、寺は繁栄し、塔頭は四十二院を数えた。
・山門、仏殿、方丈などが一直線上に並ぶ宋の禅宗様式がみられるが、ほとんどの建物は室町から江戸にかけて再建されている。

・山門には伏見上皇勅筆の「円覚興聖禅寺」の額がかかっている。
・塔頭の一つ、佛日庵は北条時宗の廟所、正続院には国宝の舎利殿が建ち、正法眼堂（しょうぼうげんどう）＝（禅堂）では、現在も厳しい雲水の修業が行なわれている。在家のための座禅道場「居士林（こじりん）」は、柳生流の剣道場を移築した建物です。

（鎌倉検定公式テキストより抜粋）

・昭和３９年（1964）に再建された仏殿の天井絵は、日本画家の前田青邨（まえだせいとん）監修、守屋多々志（もりやただし）揮毫の「白龍の図」が見事である。

・鐘楼には正安３年（1301）に鎌倉幕府九代執権北条貞時が寄進した洪鐘（おおがね）（高さ 2.5 メートル）がある。撰文は円覚寺第六世、建長寺第十一世の西澗子曇（せいかんしどん）鋳物師（いもじ）は物部国光。国宝。

参考：円覚寺の主な塔頭

・黄梅院（おうばいいん）…夢窓疎石の塔所（たっしょ）。室町幕府第二代将軍・足利義詮（よしあきら）の遺骨が分骨されている。
・帰源院（きげんいん）…境内に夏目漱石の句碑「仏性は白き桔梗にこそあらめ」がある。漱石は明治２７年（1894）の年末から翌年にかけて参禅、この体験をもとに小説『門』を書いたという。
・正続院（しょうぞくいん）…境内には日本最古の唐様建築で国宝の舎利殿がある。神奈川県立歴史博物館に舎利殿のレプリカがある
・佛日庵（ぶつにちあん）…八代執権北条時宗の廟所。子の九代執権貞時、孫の十四代執権高時も合葬されている。
・境内には中国の作家・魯迅から贈られたハクモクレンがある。また、茶室の「烟足軒（エンソクケン）がある。作家川端康成の「千羽鶴」に登場する。

完